題目　共感と不平等、リスク回避傾向との関連性の検討

氏名　村上潤知

指導教官　亀田達也

本論文は、二つの部分から構成されている。一つは（１）「物理的痛みへの共感と不平等回避性・リスク回避性との関連の検討」部分である、もう一つは（２）「前頭葉機能と不平等回避性、リスク回避性との関連の検討」部分である。今回の（１）の部分では、不平等回避性とニュートラルな他者の物理的痛みへの共感、これらの関連性について生理指標を用いて検討している。（１）の背景には、Singerら(2006)によって明らかにされた、相手の平等な振る舞いをするかどうかが共感反応の強さに影響を及ぼすという知見がある。

（２）の部分では、（１）にかかわり、共感の神経的基盤とされている前頭葉、特にペイン・マトリックスと不平等回避性・リスク回避性との関係を見ている。

なお、（１）では物理的痛みへの共感を生理指標（BVP）測定によって算出して使用し、（２）では前頭葉機能を「前頭葉機能に関する評価尺度日本語版（吉住ら,2007）」を用いて測定した。また、不平等回避性とリスク回避性の計測は、それぞれ自分を含めない3人への分配金額を決める課題、3分の1の確率で、ある金額がもらえる２つのクジのうちどちらかを選択する課題を質問紙上で行い、それぞれのパラメーターを二項ロジットモデルを用いて推定した。

（１）の結果からは、生理指標と不平等回避性・リスク回避性との関連は見られなかった。Davisの共感性尺度を交えた分析も行ったが、生理指標、不平等回避性、リスク回避性いずれとも相関は無かった。（２）の結果からは、前頭葉機能に関する評価尺度全体、またその下位尺度であるvmPFC機能と不平等回避性との間に相関がみられたほか、前頭葉機能に関する評価尺度とDavisの共感性尺度の視点取得などとの相関がみられた。しかし、生理指標と前頭葉機能に関する評価尺度間に相関は見られなかった。

不平等回避性と痛みの認知的反応、共感に関わるvmPFCが関連しており、かつ痛みの情動的反応・共感に関わるACCと関連していなかったこと、それと他者の物理的痛みへの共感の指標となる生理指標とvmPFCが関連していなかったこと、これらの結果に着目し、不平等を物理的痛みより高度な認知プロセスを要求する社会的な“痛み”ととらえると、今回の研究は様々な痛みに対する知覚の複雑性によって、人間の痛みの認知・共感にかかわる神経的基盤が使い分けられていることを示唆している。